




学 位 論 文 審 査 の 要 旨

受付番号	① 乙 第 344号	氏名	上松 信助
論文審査委員	主 査	朝日大学歯学教授	都尾 元宣 
	副 査	朝日大学歯学教授	土井 豊 
	副 査	朝日大学歯学教授	堀田 正人 
論文題目	<p>酸反応性フッ素含有ガラスフィラー(S-PRG)</p> <p>含有義歯用コーティング材の開発</p>		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>本論文は、支台歯および義歯表面へのプラーク付着抑制を目的に抗プラーク性を有する酸反応性フッ素含有ガラスフィラー(S-PRG)を含有した義歯床コーティング材を試作し、<i>in vivo</i>にて抗プラーク性と<i>in vitro</i>にて細菌付着性試験と抗菌性試験を観察し、そして、義歯床の物性への影響について検討している。</p> <p>本実験では試作したデンチャーコーティング材(以下DCMと略す)はS-PRGフィラーをそれぞれ40wt%, 45wt%, 50wt%含有(以下DCM-1, DCM-2, DCM-3と略す)したものを使用した。コントロールとしては、床用加熱重合レジン(以下contと略す)を用い、義歯床部との接着性を得るためにアセトンベースのDCMプライマーについても試作し実験に用いた。その他の実験方法の詳細は、論文内容要旨の通りである。</p> <p>その結果、DCM表面の二次電子像から研磨によるフィラーの脱落が推測され、反射電子像からフィラーの存在を確認し、S-PRGフィラーの主要構成元素であるF, Na, Al, Si, Srが検出された。次にDCM表面へのプラーク付着はcontと比較して少ない傾向にあり抗プラーク性を有し、DCMへの細菌付着性はcontと比較して低く、また唾液浸漬群は蒸留水浸漬群と比較して明らかに低い結果を得た。一方、抗菌性試験では、DCMとcontに有意な差は認められなかった。また、歯ブラシ摩耗試験では、DCM間で有意な差が認められS-PRGフィラー含有量が多くなるに従って、摩耗量も多くなる傾向にあり、接着性試験では、初期およびサーマルサイクリング後共に研磨プライマー有群が最も高い値を示した。またサーマルサイクリング後での接着性試験の値は、初期と比較して高い値を示した。</p> <p>以上のことからS-PRGフィラー含有DCMは、抗プラーク性を有することから有床義歯補綴において有用な材料であることが示唆された。</p> <p>審査委員は、本論文がDCMによって支台歯および義歯表面へのプラーク付着、細菌付着を抑制することを<i>in vivo</i>および<i>in vitro</i>にて証明し、物性に関しても臨床応用可能な事を証明したことを高く評価し、学位(歯学)に値するものと判定した。</p>			